露五郎兵衛新はなし

乙京
371
別置
5-5
3-14

国立国会図書館　タイトル『露五郎兵衛新はなし』 請求記号 寄別5-5-3-14

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『露五郎兵衛新はなし』　請求記号　寄別5-5-3-14

ガラス使用

露五郎兵衛新はなし

百日の日てり分一時の涼あり

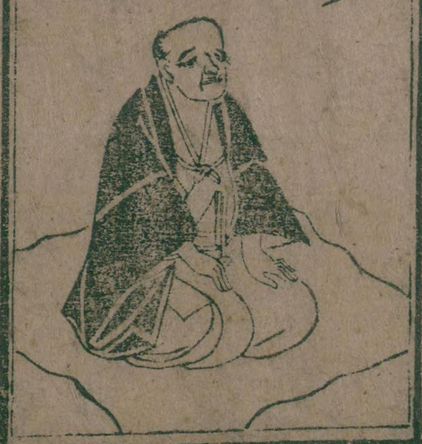
此ハ元祿十四辛巳六月十九日まで交やらぬ青柴まの凡まさ海じく雲
だらり面おりく打ちきりしまさ海じく祿をやらぬ者あけの如くつく
くとながら何のせ元月此頃の如きとなるともにあるいづちゆかお
こり車軸の面をあがりしといかづまハ雲ぶんとわざむきつゝさい一天
まつ漢をさしたんとくふるへ殺伐ふひまあしたんらいつゝせいでんの口も
ともまかきわるいつゝ血のみちとなせるをみけきへ戸柳末徒の
おぞにあづらきそきせる持かがら人のこいがるをわざまらんと
ぞらくいつよみをえせてれどうんせあけまいえいえまと香をと

露五郎兵衛新はなし

俗名 露五郎兵衛
戒名 露体 生年五十九才

風しかふくくれなくこそ

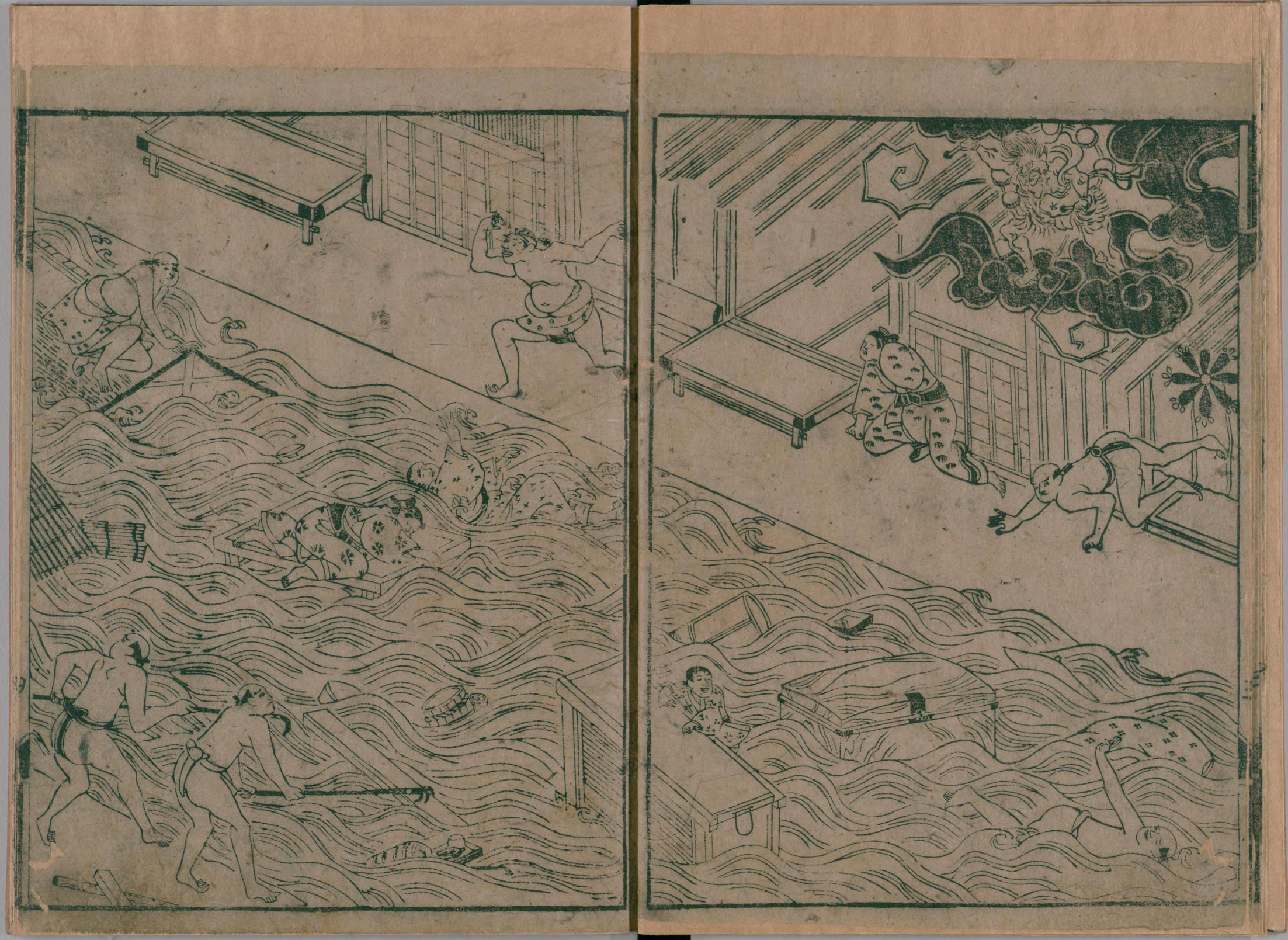
露体



一そん後と
おしむ君か

国立国会図書館　タイトル『露五郎兵衛新はなし』　請求記号　寄別5-5-3-14
ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]



国立国会図書館　　タイトル『露五郎兵衛新はなし』　請求記号　寄別5-5-3-14

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『露五郎兵衛新はなし』　請求記号 寄別5-5-3-14
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『露五郎兵衛新はなし』 請求記号 寄別5-5-3-14

ガラス使用

祝ど是ハ行のつ事れば扨ハ下ゐの志まひ風呂ゝと志ふてあらさ
といふこと

かみかりの事をとるなかし

神かり中方にも熱大将ありて下く此神かりどもけしよせけるびハ大
ぶん下ゐへあらされば定て事を其大ぶんなまべし急ぎ出して見
せよとありされば下かみかりども口をそろへ出をゞともで出さり
ましてさりながら今ゆゑど下ゐにハまひご面がたゝりましてゆへ
ゑかく棄の木でこしらへてまふく持ていまするゆへふと
二階へいかなるまもさへらるゝてゆゑて出ざるゝといふこと

江東中洲の神かり

中洲ひ夏がえやへ出しくとおつるていしも紀をつぶし
やまとかのれハ何をのじやなれハ神かりじやといへば立ちて時て
夏ハ雨もまるし所かしに二階へ落るといふものなりと志
ゐるなれば中けでゝ海をぬといふこと

六角ぶ長生やの神かり

六角前の長生座へ落てさんくにあぶれ雲ゐをさしてあがら
なる頃にて内外のをの花やくく気をれかしさそもきびし
きてるや世も滅をるゝと志ふことて門の如りを見ありきけるに老
皷一つ落てあり扨もく神かりがたいことをまとれていまゐるいとて
近所の人ハもしせて当りにもあるべしと悦ぶ所へ風乃神をつる

国立国会図書館　タイトル『露五郎兵衛新はなし』 請求記号 寄別5-5-3-14

ガラス使用

川かぐ玉まつり

ゑ年の皇にハ川かぐれせし人の親兄弟知げきの内の玉まつりかれ
ぐれまゝ意しきへにあふんちして我むけに萩の餘とも向
ゑるに所に実大きに猶とて外の家花ハともかくも我しくハ
あふおきてこれぞ名ハきくもいやしやたまの大きもとゝ

すまひ花のたかし

ひころ何方にをすまひまして左国近国のすまひれまれもくと
光れ打ち六時死の芝居にて打川ぞ病気なると大山が二番獨て
これしがるやうなるやうこち此の是沿法の彼中るに田舎の打撲
花のおさらぬ人打川をもんでいふれあれへいままへしやときいてとい

へだ外のすまひれいかにも打川ハ指黄手や其黄手れまりしハ仕やると
いへだ是ハさて我ハ此中三番三番の海りしを嘗てさんかゝしに
そふに指黄手の海りしハさて結構にまふといへたいやさしてハあい紙
のまりしのるのといへだそれハ何としてかうしてかりまたまいと

そさし物年寄とのたかし

下京ノ所の宿老とのむかふまつりせるを同所の米屋北の
その面ふりなれば笠がつりをもきに米しからせなりて来りしが
おそしよりへをくまいしたかふ出ぎ出まれといひ今れぞおとしより
きかれてやわまる何がつるかといはれる

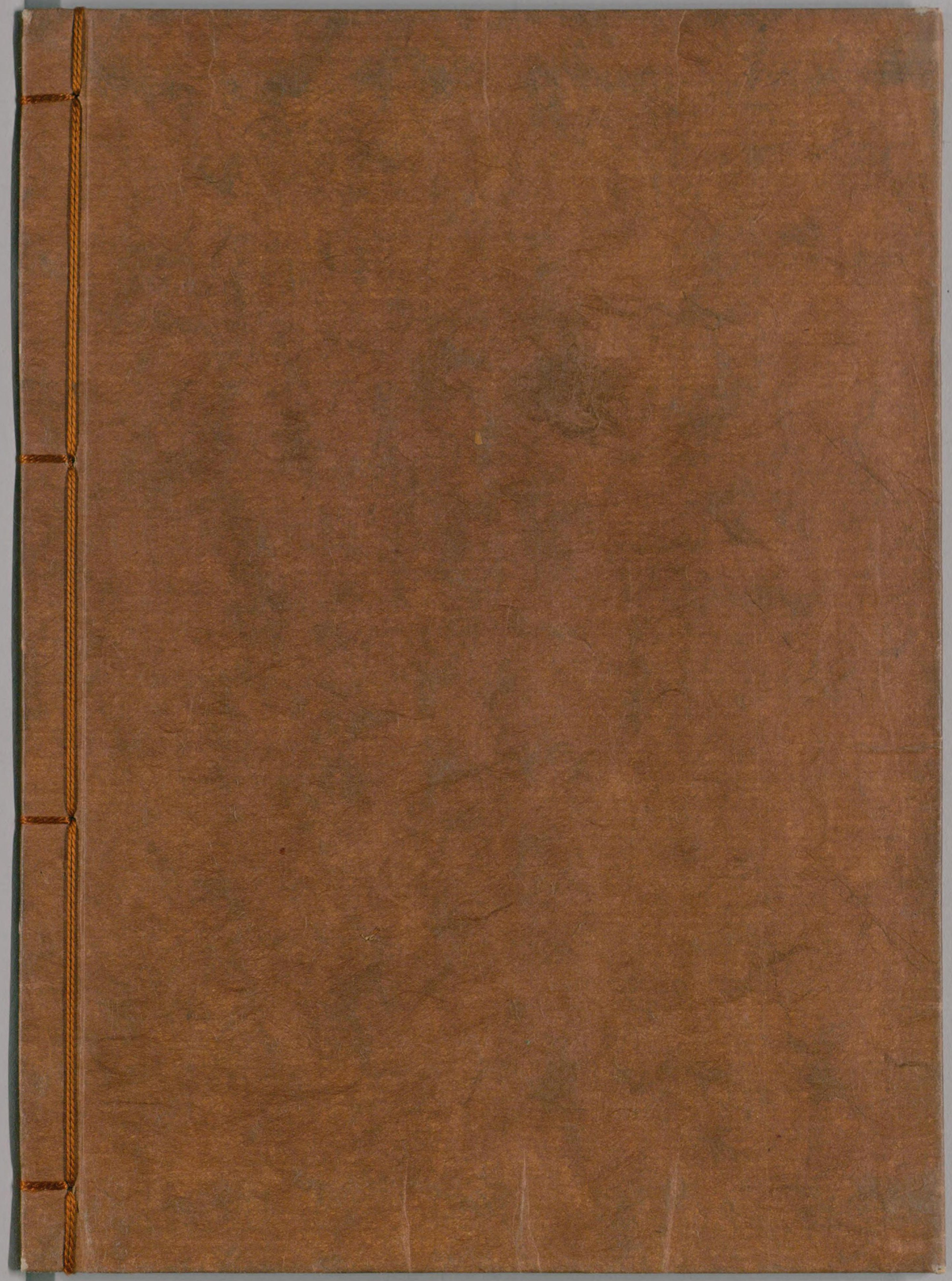
老人の如しづるひ

国立国会図書館　タイトル『露五郎兵衛新はなし』 請求記号 寄別5-5-3-14　　ガラス使用

乙京
371

国立国会図書館　タイトル『露五郎兵衛新はなし』 請求記号 寄別5-5-3-14

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『露五郎兵衛新はなし』　請求記号　寄別5-5-3-14

ガラス使用